

こうげい

都立工芸同窓会会報 No.183

2024年(令和6年)4月12日発行

春 *Spring, 2024*

投稿を歓迎します

- 皆様のお仕事などでの成果、創作、社会貢献など、ご活躍のご様子をぜひお知らせください。
- クラス会の様子もお知らせください。

郵送先：都立工芸同窓会

(住所は工芸高等学校と同じで、最終ページにあります。)

またはホームページのお問い合わせより

ご投稿ください。



2024年度総会(ごあんない)

日時 5月18日(土) 受付12時30分から

記念講演 午後1時~午後2時 会場：母校1階視聴覚室

講師：武内賢太 氏(2012年M科卒)

演題：「都立工芸の同級生と起業。」

日本の伝統と最新技術を組み合わせたものづくり。」

総会 午後2時20分~午後3時 会場：視聴覚室

懇親会 総会終了後開催 会場：会議室

会費：3000円

※御出席の方は、同封のハガキに必要事項を

ご記入の上必ず4月30日までに投函を

お願い致します。ホームページからのお申し込みもできます。

講師からのメッセージ

「日本の伝統×最新技術」をコンセプトに活動を広げている。

「goyemon」のブランド名の元となっているのは、かつて日本に実在した大泥棒・石川五右衛門という人物。彼が石垣に登って侵入するために用いたと言われているのが「かすがい」という「」の字型の金具で、通常は二つの材木を打ちつなぎ合わせるために使われているもの。goyemonは最新技術と日本の伝統技術をつなぎ合わせてデザインすることで、「常識を盗む」ことをもくろんだプロダクトづくりに励んでいます。

都立工芸で出会った友人同士でブランドを設立し、いまでは都立工芸の後輩も「goyemon」の一員として共に働いています。プライベートと仕事にシームレスになった珍しい働き方ではありますが、都立工芸で学び、今も大切にしている「仕事を楽しむということ」が根底にあります。「優れた芸術と泥棒は似ている。どちらも人の心を盗む術を知っているからだ(某三代目大泥棒のセリフより)」



「matou-磨刀-」



「Fuwan-浮碗-」



「unda-雲駄」

講師プロフィール

「goyemon」は都立工芸の卒業生である大西藍と武内賢太によって立ち上げられたデザインブランド。

2009年に都立工芸高校マシンクラフト科に入学することで出会い、3年間の在学生生活を共に過ごした。その後「世の中にないものを作ろう」と、2019年にデザインブランド「goyemon(ごよもん)」を立ち上げる。「日本の伝統×最新技術」というコンセプトのもとプロダクトのデザインから商品開発・販売を自らで行ない、クラファン総支援額8200万円の達成や世界的ブランドとのコラボを経験。

「高校生活の延長線上に仕事がある」という考えで、遊び心を忘れずに活動中。



Instagram

会長就任のご挨拶

新会長 藤岡俊平（2014年・M卒）

この度、理事会にて都立工芸同窓会（旧・築地工芸会）会長に「ご指名いただきました。若輩者ではありますが、フレッシュな



私へのご期待に応えられるよう可能な限りのご奉仕をさせていただく所存です。何卒宜しくお願い申し上げます。

都立工芸同窓会は理事の皆様を中心に無報酬で運営がされております。

働かれている方も大勢いる都合上特定の方に多大な実務の負担が回らないよう多くの方にサポートをしていただきたいと私は考えております。誰が都立工芸同窓会の何を担っているのかを共有し不測の事態が起こった場合にも引継ぎを行える体制を作ることが会を長く存続させるために重要と考えております。そのためには会が母校のために具体的にどのような「ご奉仕をしているのか」「こうげい」やホー

ムページ・X（旧White）を使いながら同窓生・在校生・PTAの方々に知っていただくことが重要と考え、それら3つのツールを司る広報委員会という組織も既に継続して活動しております。

また、事業プロジェクトという組織も立ち上げており同窓生・在校生・PTAが参加できる博物館見学及びワークショップの企画が立案され本年初夏ごろ実施される予定です。

このように、都立工芸同窓会は名称も変わり従来のような定期的な会議・顔合わせをして予算を承認するというだけでなく新しいことにチャレンジし今まで以上に人のつながりを意識する会として生ま

れ変わろうとしております。

私が在学中の時から女性の比率が多い母校です。同窓会の理事に私がならせていただいてから7年が経ちその頃と比べても女性の理事の方が増えてきました。あまり男性がとか女性がと言うのは好きではないのですが女性特有の目線が今後の運営にも重要になってくると考えております。

梶前会長のようなバイタリティ溢れる運営は中々難しいですが、私なりに今までの意見や活動を皆様のお力をお借りながら実行し、従来の良い伝統も守りながら母校に恩返しができるよう邁進する決意です。

皆様どうぞ宜しくお願い申し上げます。

退任のご挨拶

前会長 梶広幸（1969年・D卒）



この度、同窓会会長をM科代表理事である藤岡さんにバトンタッチさせて頂く事となりました。在中には皆様に様々

なご協力をいただき大変有難うございました。前任の大賀会長による「会則の変更」と「理事会運営規約の作成」が成され、規約に規定された「広報委員会」「事業委員会」が組織され同窓会運営が明確となり円滑化が進みました。組織された委員の皆様のご協力と奉仕によって、同窓会員の皆様からの機関紙「こうげい」とホームページへの投稿や情報発信が進みました。さらに全・定PTAの皆様との交流も一歩進み、生徒会とのイベントの企画も検討されておりますが、大きな課題も見えてきました。

同窓会は「老・壮・青」各年代の会員の皆様への情報の提供と交流が活動の基

本であります。在任中に大きく感じました課題は、現在の工芸卒業生の殆どが大学や専門学校へ進学しその後社会へ出た、多くの同窓生の動向が不明となっている事です。その結果、工芸の強みであり特徴でもありました縦の繋がりが弱まっており、多くの若い会員の氏名・住所などが不明となり「こうげい」の発送先や会費の納入などが年配の方中心と成っております。

縦の繋がりが弱まった一方で、若い年代には各科を超えた同年代での繋がりが活動が散見されます。今号7ページの記事「卒業生の工芸祭——未来に続くアートフェス——」は科を超えた同年代のイベ

ントであり「おとなの工芸祭2023」は同期で始まり縦の集まりに発展しております。これらの同年代の繋がりと伝統的な縦の繋がりが相互に緻密に織りなす事によって、同窓会が今まで以上の新たな存在意味と機能を持った組織として発展する事が期待されます。

藤岡新会長は2014年M科卒の若い会長であり同年代の横の繋がりが多いと拝察します。今後の新たな同窓会に向けて期待させて頂くと同時に前任者として全面的な協力は勿論ですが、同窓生皆様のご支援とご協力を是非ともお願い致します。

理事会から

同窓会会員の皆様には常々同窓会への
ご参加・ご協力、大変有難うございます。

「年会費改定のお願ひ」

同窓会事業の主たる活動である機関紙
「こうげい」では同窓会の活動や情報の
提供、ホームページではそれに加えタイ
ムリーな情報の提供等を行っております。
「こうげい」前号別紙でご報告させて頂
きました。近年の物価の高騰や同窓会
会費納入の停滞等により同窓会の会計が
令和4年度は35万円弱の赤字となつてお
り5年度も赤字となっております。

現在の活動を維持し更なる向上の為
に昨年12月度の理事会で「年会費の
2000円への値上げ」を採択してい
ただきましたので、今年度の総会でご承認
いただく予定であります。会員の皆様
にはご理解とご協力を頂きたくよろしくお
願ひ申し上げます。

「会員名簿更新と頒布のご案内」

同窓会会員総名簿は2016年に「築
地工芸会会員名簿2016」として作成
されてから8年が経ちました。その後毎
年引越しや転勤などで名簿の不備が拡
大しております。また新会員の名簿への
追加も出来ておりません。会員名簿は同
窓会活動の最も基本的な情報であり活動

にとつて不可欠の物でありますので、昨
年12月度の理事会で新名簿の作成を決定
致しました。

同窓会員の皆様への住所確認のお願い
と2016年以降の新会員を追加した新
名簿は2025年度の完成を予定してお
り、同窓会員の皆様には有料で頒布させ
て頂きます。

皆様には「こうげい」の発送と名簿管
理を委託しております(株)サラトか
ら住所氏名などの確認のご連絡をさせ
て頂きます。ご理解とご協力をお願い
致します。

関西工芸会支部だより

関西工芸会の集いを開催

昨年11月25日、京都にて2019年の
開催以来4年ぶり第60回目となる『関西
工芸会の集い』を開催いたしました。

関西工芸会は工芸高校全日・定時制卒
業者で関西に移住されている方で組織さ
れた同窓会で、90年以上の歴史があります。

現在関西工芸会として把握している会
員は59名おります。当日は昭和29年卒の
先輩から平成29年卒の後輩まで総勢15名
(初参加者5名)と、東京からは都立工芸同
窓会梶会長・神山先生・細江元理事が参
加して下さり、総勢18名で開催する事
ができました。

世代の垣根を越えて同窓という絆で結
ばれ、東京から離れた関西の地でも学生
時代の話しや現在の活躍を楽しく語らう
場になりました。

これからも伝統ある関西工芸会が継続
して活動していけるよう努めて参ります。

関西工芸会事務局

松田健(2001年・A卒)



2023年11月25日の集い

中京工芸会支部だより

中京工芸会総会休止と 事務所継続のお知らせ

安心して集まれるまで休止を宣言して
から4年ぶりに昨夏夏の終わりに集まり
ました。五反田会長(S35M卒)宅への甲
問の報告と合わせて宮島さん(S31M卒)
下山田名誉会長(S23M卒)「お三方を偲

ぶ会」となりました。名簿から出席・返
信状況の共有。近年転勤の減少もあり転
入者の見込みもなく高齢化の歯止めがな
く56回も続いて来た歴史ある総会の形を
存続させることは困難との結論に至りま
した。ただ解散としてしまうと再立ち上
げの難しさも考慮し後身の為には「総会
休止」とし安藤・岩佐副会長は継続、会
長は空席のままと致しました。その後、

秋の集まりの呼び掛けに応じて久しぶり
に出席頂いた加藤さん(S39A卒)初めて
の参加の田中さん(S43F卒)に、出席率
が最も高いと笑いながらお越し頂いた細
江さん(元築地工芸会会長・S41M卒)計9名
の会食となりました。今後ゆるやかな
会の事務局としては継続致しますので転
入の際はご一報下さいませ。ここに「総
会休止」のご報告とお知らせとさせて頂き、
これまでのご支援やご協力に感謝し御礼
を申し上げます。

中京工芸会事務局

井上京子(旧姓・今泉 1975年・F卒)



2023年秋 お三方を偲ぶ会

「倉俣史朗はほくらのあこがれだった」

永井裕明(1976年・D卒)

企画展「倉俣史朗のデザイン——記憶のなかの小宇宙」が世田谷美術館で開催されました。



期間は2023年11月18日から2024年1月28日まで、富山県美術館では2024年2月17日から4月7日まで、京都国立近代美術館では6月11日から8月18日までとなっており、巡回で開催される予定です。

倉俣史朗(1934-1991)は1953年に都立工芸高校木材工芸課程(現在のインテリア科)を卒業後、桑沢デザイン研究所リビングデザイン科に入学。桑沢を卒業した後、株式会社三愛(銀座4丁目交差点)に入社して宣伝課に勤め、その後独立してクラマタデザイン事務所を設立しました。透明感、浮遊感のあるインテリアは世界で高く評価され、作品は各国の美術館にも收藏されています。

今回は、企画展のグラフィックを担当

された永井裕明さんに倉俣史朗の魅力と今回の仕事への取り組みなどについてお話を伺いました。

2023年12月6日 N.Ginc.にて

杉原由美子(1992年・D卒)

——永井さんから見た倉俣さんの魅力を教えてください。

アイデア、デザイン力、ユーモアのセンス。これは、文章を読んで知ったんだけど、なにかアイデアが浮かぶと借金をしてでもつくりたくなっちゃうんだって。普通はクライアントがいて、依頼があってからアイデアを出すものだけど、倉俣さんは先に現物を作ってしまう。自分も思っていたらすぐに描きたい、作りたいと思うことはあるから、そこにはすごく共感できる。

——展示されている作品の見所は？

倉俣さんの作品にはケレン、わざとらしさが無い。それは、たぶんなんだけど、自分が見たいと思った物をつくっているからなんだと思う。見ているとすごくそういう気がする。

《変形の家具 side 1》(S字にカーブしている高さ170cmのチェスト…1970年)

たとえば、「引出しが曲がっちゃったらどうかな?」と思っただけでもたっぴらねず、すぐにつくりたくなる。それってクリエイターのあるべき姿だと思う。



はじめに仮説を立てる。それを形にするデザイン力がある。発想がかわいくて、デザインはシャープ。考えていることが軽やかだよ。

《ランプ(オバQ)》(1972年)

こんな風に、熱したアクリル板をランプに見立てた鉄球に被せてドレープをつくっている。これ(大)は量産だけど、こつち(小)は倉俣さんが自分で被せたんだ。

オバQは僕が務めていた事務所にもあつたらから、倉俣さんにも親しみを感じていた。20才くらいの頃、お使いでクラマタデザイ

ン事務所に行ったことがあったけど、その時倉俣さんはいなくて会えなかったな。

《ガラスの椅子》(12mm厚の硝子板をフォトボンドで接着した椅子…1976年)

ガラスの椅子は三保谷硝子店の前社長が「画期的な接着剤ができた」と言ったら、倉俣さんはその場ですぐに図面を引いたそうだよ。「誰を座らせる?」という話になった時には「石岡瑛子を」という話になった、と三保谷硝子の前の社長がお亡くなりになる前に聞いたことがある。

三保谷さんは倉俣さんと一緒に仕事をしていた普段から仲も良い。だから「こんな物(接着剤)ができたから、倉俣さんに持っていってらおもしろいだろう」という感じだったんだろうね。倉俣さんには信頼している腕の良い職人さんとのチームワークがあるんだよね。



投稿

「地方創生×アート×ヨガ」

川越れい子(1999年卒)

2009年、現東京芸大長の日比野克彦先生が監修された種子島「時の芸術祭」の招待作家として、アートプロジェクトを立ち上げ、できるだけ多くの方々と共に過ごした「時」を自らの作品として作っています。その活動が島の方々、地域の活性化にも繋がります、ますます多くの方々が関わっていただいております。

アートは、だれにでも参加できるというところで「繋がる」ことができ、交流を目的としたプログラムとして非常に大きな役割を果たしてくれています。



具体的には、島の子供たちと流木を活用した流木動物園を作ったり、宇宙食の開発にも携わり、JAXAから認証をいただいたりややりたいことがカタチになっていきます。またヨガも取り入れ島の方々の、

心身の健康プログラムとして地域力を向上させています。地域では独居のご高齢者の方や移住者が多く、社会と繋がることでより豊かに生活ができるコンテンツとして「アート×ヨガ」の役割は行政の方々も期待をしています。

「アート×ヨガ」は自分自身を作り上げる方法としても、想像力、集中力、俯瞰力、許容力など、人間としての精神性を磨き、感情の働きを理性をもって扱い、さらには世界の平和にも「繋がる」思考に変化していくようです。

ここ最近では種子島を出て、必要とされるより多くの方々へと「アート×ヨガ」を伝えるために日本各地に種まきを始めました。鹿児島錦江町でも同じく行政や教育機関の方々と連携し後継者を育成、地域の方々に「アート×ヨガ」のレクチャーができる地域の方々が活躍しています。地方が抱える様々な課題を解消するプログラムとして「アート×ヨガ」からどのような効果が生まれるのかを産官学連携して進めています。

さらに2024年は日本各地でまいた種の芽がでるように、一人でも多くの方々が幸せになっていただけるように、さら



ホームページ
<https://lotus-beach-tanegashima.amebaownd.com/>

に繋がっていったらと活動していきたいと思っています。

また母校工芸高校の会報誌に掲載いただき、未来ある若い方々少しでも糧になれたらと「伝える」機会を与えていただき心から感謝しております。またご興味、ご関心がある方がいましたら是非ご連絡できたら幸いです。

クラス会

M科13期傘寿クラス会のご報告

& 飯島饒氏受賞

全日制機械科13期(1960年卒)の傘寿を祝ったクラス会を母校工芸祭見学の後に開催。同期

の飯島饒氏が油絵「浅間山秋姿」で「文京区秋の文化祭」の祭奈良岡正夫賞を受賞致しました。



F科昭和43年卒、同窓会報告

令和5年8月18日、昭和43年F科の同窓会を新宿の居酒屋で開きました。平成28年に開催された、I(F)科総合同窓会以来の再会となり10名が楽しいひと時を過ごしました。



●QRコードからホームページの記事をご覧ください

110年を超える歩み もっと知りたい都立工芸の歴史

ヨーロッパより導入された活字印刷技術による新聞印刷、書籍印刷、商業印刷の著しい興隆により、近代印刷産業は都会の新しい地場産業となりつつあった。銀座には新聞社が多くあったが、その印刷工場は銀座、丸の内にも多く、また神田南区にも印刷工場が集まった。本校（築地校舎）に非常に近いところにも多くの印刷工場があった。

第6回 印刷科・図案科

○興隆する東京の印刷産業の要請に
前身は夜間部からスタート

印刷科(現グラフィックアート科)

印刷の夜間部設置を働きかけたのは、金属工芸科で図案や工芸史を教えていた宮下孝雄先生だった。宮下先生は東京高等工業学校で製版印刷技術を学んでいたので、築地という絶好の場で印刷技術者の養成ができないかと石黒校長、大宮教頭と協議。1913年(大正2)に印刷科夜学部をスタートさせたのだった。宮下先生は平版を教え、活版は当時銀座にあった秀英舎の重役に出講してもらった。また、石版手引機1台が日本橋にあった中西インキ材料店から寄贈された。

印刷技術養成学校の設置は東京印刷同業組合にとって念願の事項であった。そこで業界の有力者21名が発起人となり、本校に印刷科の本科設置を計った。石黒校長も大賛成で、東京府に印刷科新設を建議した。ところが府には予算が無く、最初の答は「ノー」であった。石黒校長は印刷技術者養成の必要性を熱心に説いて、食い下がったので、ついに府は印刷業界が内部設

置費約1万円(現在の価値に換算すると約5万円)を負担するならばそれを府が負担しようという回答。これを受けて東京印刷同業組合は1917年(大正6)1月に「東京府立工芸学校内印刷科設置に関する趣意書」を組合員に送り、募金1万5千円を東京府に提供した。こうした業界の努力と石黒校長の熱意が合わさって、印刷科は1918年(大正7)4月から授業を開始した。翌年には、科名を製版印刷科に変え、カリキュラムも変更されていく。

○「六・三制」改革の副産物として誕生

5年制の旧制実業学校であった本校が3年制の新制高等学校に移行するということは、端的に言って2学年が減少し、教員が余るといった危機でもあった。その事態



1966年頃の実習風景

を前にして考え出されたのが図案科新設であった。木材科の吉見先生が発案し、各科の先生から選んで図案科に異動してもらった。東京都にはまだ予算の余裕は無かったが、特別な経費を必要としない図案科ならよろしいということで、認可された。つまり、図案科はある意味で学制改革の副産物として誕生した。この解決策は、戦後復興後さまざまな分野でデザインが重視されてきたことを考えれば、非常に先見性があった。1949年(昭和24)に都立高としては初の図案科が誕生。すでに全国には10校ほどに伝統のある図案科があった。

1950年(昭和25)1月28日で、新学制への移行期が終わり、本校も東京都立工芸高等学校となった。4月、図案科は定員40名となり、その2期生に工芸学校創立以来初の女子生徒5名が入学した。やがて

1966年(昭和41)に機械科にも初の女子4名の入学があり、全科に女子生徒が加わった。図案科から科名変更したデザイン科では女子が男子を上回るということも起きはじめた。

都立工芸高等学校は1907年5月10日に創立。今年で117年です

伊東久江(1985年・F卒)

参考文献 図版出典 『工芸学校80年史』『都立工芸100年の歩み』

技術資料の制作

取扱説明書
マニュアル
翻訳
テクニカルイラストレーション
3D
音楽
通販

有限会社 ステーション・エム
代表取締役 細江 邦雄(M41)

本社 〒162-0828 東京都新宿区袋町25細江ビル
電話 03-6280-8455 FAX 03-6280-8456
http://www.station-m.co.jp/ e-mail: hosoe@station-m.co.jp

PLANNING CENTER
STATION.M
有限会社ステーション.エム

Instruction manual
Service Manual
Translation
Technical Illustration
3D
Music
Mail-order selling

校友の活躍

「おとなの工芸祭2023」開催報告

2023年10月30日(月)より5日(日)まで、市ヶ谷・一口坂ギャラリイにて開催されましたデザイン科卒業生有志による作品展「おとなの工芸祭2023」は、おかげをもちまして盛況のうちに終了いたしました。ご参加いただきました同窓生、ご来場いただきましたみなさまに感謝申し上げます。

30名の参加者による、写真、イラストレーション、立体オブジェ、手芸作品など多種多様な作品が展示されました。また今回は、屋外のディスプレイにもこだわり、街を行く人々の興味を惹きつけ、期間中の来場者は260名を超えました。

4日(土)には、4年振りに君島昌之先生の特別講演「関東大震災100年——帝都復興事業と復興小学校」が行われました。

おとなの工芸祭実行委員会



「卒業生の工芸祭——未来に続くアートフェス——」作品展・同窓会報告

2023年11月14日(火)・19日(日)

卒業生8名による、インスタレーション、油画、立体絵画、イラスト、手芸、カメラストラップ、什器など、個性が光る作品が新木場 Soko Station 146で開催され、期間中はカフェ利用の一般のお客様の目にも触れ、楽しんでいただきました。ご教員、同窓会の役員、先輩、同窓生、ご来場頂いた皆様に御礼申し上げます。18日(土)には、同窓会が行われ、40人超のご参加いただきました。卒業以来、会えなかった友人や先輩、後輩と再会でき大先輩からも貴重なお話を伺い、とても有意義な集いとなりました。

実行委員長 片桐寛人(1999年・M卒)



金属工藝科第28期生の緑友会の旗を寄贈頂きました



故・吉田啓喜氏(1942年・A卒)の息女から「金属工藝科第28期生 緑友会の旗」が寄贈されました。吉田先輩及び「クラスメイトの方々にもとても思い出深い旗だったようで同窓会で保管して頂ければ安心し喜ぶことと思います」とのことです。

当時の、本科は吉田氏が入学された昭和12年から5年制となり金属工藝科28期生は27名、昭和17年12月の第32回卒業です。緑友会に関する事項は『工芸学校80年史』『工芸学校の90年』『都立工芸100年史』いずれにも記載がなく活動の詳細は不明です。緑友会に関する資料や情報をお持ちの方は同窓会へご一報いただければ幸いです。

M科OB・OG展示開催中

M科OB・OGによる展示が3月25日より母校で始まりまして。

出展は64期大西藍さん・武内賢太さん、66期佐々木慧さん、67期永田優美さん・宮川翔宇さん・香取輝さん、68期牛木ちひろさん・浪岡ヨリさん、多々見草太さん・69期貝原海帆さん、栗原みなみさんの11名です。2012〜2017年卒の若いクリエイターが様々なジャンルの作品を展示しています。

工芸卒業後の各人の様々な活躍を母校にお越しの際は是非ご覧になってください。同窓会のホームページでは作品と出展された方の詳しい情報を追加公開する予定です。



1階 卒業生展示ギャラリー 展示風景

校友の活躍

第16回日本シューズベストドレッサーに於いて「トキのヒール」で

クラフトマン部門グランプリを受賞

岩崎祥子氏（2022年・A卒）

現在、城東職業能力開発センター台東分校で靴作りの勉強をしています。昨年11月に行われた、ベストシューズドレッサー賞クラフトマン部門の受賞についてお話をさせていただきます。

そもそも何故靴作りなのかというと、幼い時に小人達が協力して靴を作るといった絵本を読んで靴職人になりたいと思ったのがきっかけです（笑）。造形感覚を身につけようと工芸高校に入学しました。今回グランプリを頂いたコンペは、靴作りを学んでいる学生向けのもので今年のテーマは「地球について考える」でした。難しかったのが再生レザーを使用するという条件でした。再生レザーとは、革の端切れを集めてコーティングして一枚の革に



したものです。普段使用している革とは扱い方が違い、全て手探りででの製作でした。絶滅危惧種の朱鷺をモチーフに、再生レザーを染色し華やかな靴を目指して製作しました。授賞式の時、ランウェイを歩いてくれたり一緒に喜んでくれたりするA科の友人達に、とても温かい気持ちになりました。

春から靴の上部をミシンを使い製作する仕事に就くことが決まりました。健康に気をつけて、こつこつ頑張っていきたいと思います。



受賞作品『トキのヒール』

「もっと描きたい!」

古木嘉雄氏（1970年・M卒）

早いもので工芸高校を卒業して半世紀以上の月日が流れました。

在学中は機械科でしたが絵が好きで家ではよく人物画を描いていました。

会社勤めでは電気部品メーカーで設計の仕事をしていましたが、絵はあくまで趣味で仕事の合間に描いていました。ちょ



神奈川県知事賞『妙なる調べ』

うど経済が高度成長期と重なって休日出勤したり、またその後のバブル崩壊で会社が縮小したり人手不足になったりで、落ち着いて絵を描く時間がありませんでした。それでも自然の風景などをスケッチしたりして、もっともっと絵を描きたいという想いは常にありました。これで終わりたくないという気持ちでした。

65歳で退職した今は月に2回ほど絵画教室に通い毎日絵を描いています。今日まで描き続けているのは会社勤めをしていた時の「描きたい!」という強い気持ちがあるからだと思っています。現在の私の絵画制作の原動力になっています。

退社後3年間はデッサン力が不足していましたが、その後鉛筆や木炭などで絵画教室のモデルの前に繰り返しデッサンをしました。その後油絵を始め大きな作品も手がけるようになり、現在は展覧会に出品

できるようになりました。賞も頂くことができ本当に光栄なことと思います。

私の作品はよく古典的と指摘されることがあります。確かに抽象絵画や現代アートの作品と比較するとかかなりアカデミックな作風です。絵画は具象、抽象にかかわらず造形力が問われると思いますが、その基礎としてデッサンの必要性を考えております。古典からそれらを学ぶものは数多くあります。私の絵はまだ初歩の段階でこれから独自の世界を創造していかなければならないと感じております。

日本画の東山魁夷さんの言葉に『描くことは、祈ること』とあります。私の絵が多くの人々の心に届くように、いつも絵に向かう時はそのような気持ちで制作に取り掛かっています。

最後になりましたが、M科45年卒の工芸同窓会の皆様には感謝しかありません。展覧会に何度も足を運んでくれ、応援し励まし続けてくれた仲間がいることは私の絵の制作に大きな力となっております。



椅子に座る女性 横浜市長賞

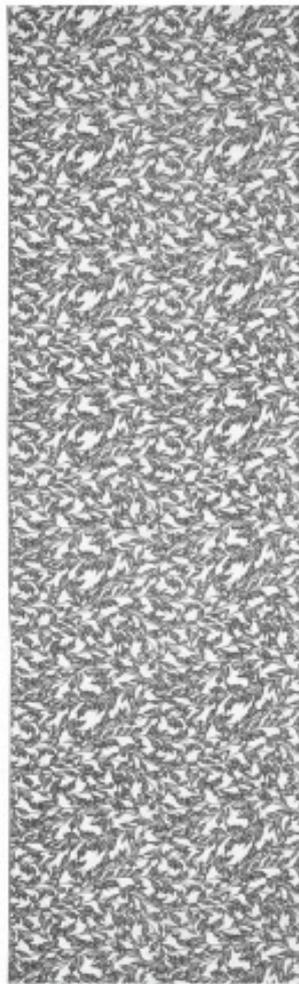
校友の活躍

第70回日本伝統工芸展

日本伝統工芸展は令和5年9月13日(水) - 25日(月) 日本橋三越本店に於いて開催され、5名の校友が入選展示されました。

・染織部門 人間国宝

松原伸生氏 (1984年・D卒)
長板中形着尺「蔓草文」



・金工部門 人間国宝

桂盛仁氏 (1964年・A卒)
白鷺 金具



・金工部門

大沼千尋氏 (1970年・A卒)
切嵌花器「黄土の連山」



・漆芸部門

水口咲氏 (1993年・D卒)
乾漆箱
「月明かり」



第10回日展

日展は令和5年11月3日(金) - 26日(日) 国立新美術館に於いて開催され、3名の校友が入選展示されました。

・春山文典氏 (1964年・F卒)

「Mikoshi」



・尾澤勇氏

(1982年・A卒)
「雲海」
大平山遠望



・田中照一氏

(1964年・A卒)
「暁」



医療機器の分野で「世界初」の取り組みを始めています。



「人の未来へ、暮らしに役立つものづくり」を信条としてきた私は、いま新たに医療機器分野への挑戦を決意。その第一歩として開発した製品がディスポーザブル電極です。QRコードからご覧いただくことができます。同窓生のみならず、ご興味があれば私と一緒に新たな事業にチャレンジしてみませんか？

第14期 都立工芸高校卒
代表取締役 駒村武夫

SOFKEN
株式会社 ソフケン
047-498-1111 www.sofken.co.jp/

母校だより

●定時制グラフィックアート科

『明るい選挙啓発ポスターコンクール』
全国1位・東京都1位の2冠達成!!

定時制1年・平田一瑠さんの作品が「全国明るい選挙啓発ポスターコンクール」で文部科学大臣・総務大臣賞（全国第1位）、
「東京都明るい選挙ポスターコンクール」で最優秀賞（東京都第1位）の2冠を達成。
都内応募作品、1万5156点の中から
高校生の部として選ばれました。

●全日制アートクラフト科

『第17回糸魚川翡翠ジュエリー・アクセサリデザイン画コンテスト』大賞受賞

全日制A科・
鈴木楓藍さんの
作品が翡翠ジュ
エリー大賞を受
賞。翡翠の深み



公益社団法人
糸魚川法人会ホームページより

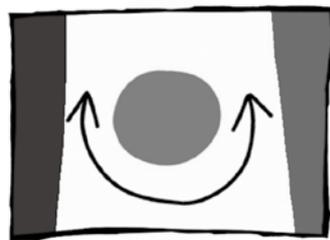
のある色で葉を、シルバーで四方に伸びる枝を、ジルコニアで9つの世界を表現。北欧神話の世界樹ユグドラシル（フーネ）をデザインした作品。

●工芸高校生徒のフランス「コルベール高校」への派遣支援募金報告

ホームページ1月20日付で掲載し同窓生の皆様にご協力をお願い致しました「工芸高校生徒のフランス「コルベール高校」派遣支援へお願い」の件。締め切り、2月9日（金）迄に10名＋1クラス会から合計86000円のご寄付があり、2月15日（木）に全額母校にお渡しすることができました。母校からは「同窓会、PTAをはじめたくさんの方々からご寄

付を賜り、生徒5名を「親善大使」としてフランスへ派遣できることになりました。皆さまの温かいご支援、誠にありがとうございました。ごじます。」とのメッセージをいただきました。同窓生の皆様、大変ありがとうございました。

COLBERT-Paris



KOGEI-Tokyo

コルベール高校との連携シンボルマーク

文部科学大臣・総務大臣賞(連名)



公益財団法人 明るい選挙推進委員会ホームページより

コンペ・大会・コンクール等 入賞

全日制

■ART CRAFT

- 東京ドームホテル アクアアートデザインコンテスト
最優秀賞:5名、アクア・アート特別賞:4名、敢闘賞:4名
- 第17回糸魚川翡翠ジュエリー・アクセサリデザイン画コンテスト
大賞:1名

■MACHINE CRAFT

- 全国製図コンクール[機械系]
最優秀賞:1名 優秀賞:2名 佳作:3名
- 20歳未満喫煙防止ポスターコンクール 優秀賞:2名
- 明るい選挙ポスターコンクール 文京区優秀賞:2名、佳作:1名
- 拓殖大学工学部 ORANGE CUP 2023 入選:1名

■INTERIOR

- 第17回高校生ものデザインコンテスト
[クラフト部門]優良賞:3名、奨励賞:1名
[インテリアデザイン部門]最優秀賞:1名、優良賞:2名、奨励賞:2名
- 第35回丹波の森ウッドクラフト展
[ジュニアの部]優秀賞:1名、佳作:1名
- ICS DESIGN AWARD 2023 優秀賞:1名
- 東京都建設系高校生作品コンペティション2023
[家具部門]最優秀賞:1名、[模型部門]審査員特別賞:1名
[製図部門]CCI東京特別賞:1名、[実習部門]優秀賞:1名
[ポスター部門]優秀賞:1名
- 全国高校生建築提案コンテスト2023 佳作:1名、奨励賞:1名

■GRAPHIC ARTS

- 全日本写真展2023 入選:1名
- 2023「読書週間」ポスターイラスト 優秀賞:1名、入選:1名
- 2023年度全日本山岳写真展 [小中高の部]入選:1名
- 文京区いきいきシニアの集いポスター 採用:1名、優秀賞:1名
- 第42回川の写真コンクール 銀賞:1名、銅賞:1名、佳作:2名
- 第36回道のある風景写真コンクール 銅賞:1名、努力賞:2名、学校賞:1校
- 20歳未満喫煙防止ポスターコンクール 最優秀賞:1名、優秀賞:1名

■DESIGN

- 「都立工科高校ドリーム・フェスタ」
キービジュアルイラスト採用:1名
- 拓殖大学工学部 ORANGE CUP 2023 優秀賞:5名、審査員特別賞:4名
- 「翔」専門高校生生徒体験発表文・作文・研究文集 表紙採用:1名
- おおしま国際手づくり絵本コンクール2023
金賞:1名、奨励賞:2名、入選:1名
- 明るい選挙啓発ポスターコンクール
東京都優秀賞:1名、東京都入選:1名 文京区優秀賞:5名、文京区佳作:4名

定時制

■ART CRAFT

- 東京都高等学校工業科生徒成果発表大会 最優秀賞:1名

■INTERIOR

- 第17回高校生ものデザインコンテスト
[クラフト部門]優秀賞:1名、優良賞:1名
[インテリアデザイン部門]優秀賞:1名、奨励賞:1名
- 東京都建設業作品展コンペティション
[工芸部門]最優秀賞:1名、優秀賞:1名、CCI特別賞:1名、 審査員特別賞:1名
[家具部門]優秀賞:1名 [ポスター部門] 最優秀賞:1名、審査員特別賞:1名

■GRAPHIC ARTS

- 2023年度工芸祭ポスター 大賞:1名
- 拓殖大学工学部 ORANGE CUP 2023 最優秀賞:1名
- 全国明るい選挙啓発ポスターコンクール
文部科学大臣・総務大臣賞:1名
- 東京都明るい選挙ポスターコンクール 東京都最優秀賞:1名
- 明るい選挙啓発ポスターコンクール(文京区)
最優秀賞:1名、優秀賞:6名
- 東京都 GRAND CYCLE TOKYO「ヘルメットデザインコンテスト」
[ペイント部門]入選:3名
- 歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール
全国優秀賞:1名、東京都3位

事務局より

一般寄附ご芳名

昨年8月1日以降2月29日まで、ご芳志をお寄せいただいた方々は次のとおりです。どうもありがとうございました。

(順不同、敬称略)

遊佐文佳、服部功、片山忠久、中谷隆夫、木下晴雄、柿坪英志郎、関根伸司、伊藤早苗、若松延男、今野健三、愛甲喬、三田村幸治、稲垣雄三、佐藤有悠美、松本七五三吉、中代源次郎、西田耕一郎、相原孝一、横山一雄、小野塚均、井上伸行、丸山士郎、石井あづみ、関根敏治、間中辰男、安宅伸枝、宮崎忠夫、飯沼勲、渡部なお、堀口邦枝、鈴木幸男、大場康博、旦保花瑛、原和男、堀口邦枝、鈴木慶一、齋藤彩樹、齋藤恒平、岩佐泰樹、松原伸生、湯沢宋江、笹沼健一、不二山伯、久保遊、井部早苗、加藤泰弘、松本勝博、成田真一郎、安室典忠、曾我部上、杉山昌光、山本良子、山口博幸、板橋昇、今井定義、前田竹明、矢島政幸、渡辺二孝、野永由美、能登崇行、岩下彰子、羽染圭峻、森亮憲、桂剛、猪俣廣己、青山正男、牛窪濱二、馬場信一、田丸勝秋、鈴木繁雄、黒田次郎、大里一嘉、滝田昭、小口輝夫、吉田英昭、福田満、加藤博己、鈴木宣喜、小川政之、怡土昌子、伊藤聖樹、熊澤ひより、伊澤沙羅、斉藤千奈、渡會郁香、芳賀昭正、渡辺昭順、斉藤亮、佐味貫義、栗原武司、所和男、池田博、千川弘、羽永慧、横田修光、前田花梨、福島儀夫、糸川

富子、齋藤清志、福島彰生、森下理恵、長江

豊美、久保いずみ、福田一郎、小宮夏帆、石

川進造、杉山昌光、野島進、山口博幸、前田

竹明、小田部邦彦、関口信幸、三橋宏之、阿

佐美朱礼、塩田廣恵、奥村潤、西江典子、佐

藤麻央、福田佳代、齋藤后琳、糸永彩乃、小

林久展、寒河江伊織、馬場信一、佐藤治、河

合泰雄、松本実、武田和之、遠藤英雄、松富

壽嗣、斉藤太郎、黒田晴香、三枝安梨沙、山

田一彦、富岡征男、木村仁宣、戸矢雅道、永

田忠司郎、斉藤亮、亀井正弘、小森英夫、飯

塚邦雄、福島潤、多田洋一、泉雅子、前田花梨

小幡武司、仲波由美、松原宏一、佐々木良子、

富村小夏、里見伸暁、藤岡俊平、梶広幸、長

澤政治、江連誠、福田哲夫、杉原由美子、丸

山士郎、神山隆夫、荒井拓哉、1973印刷

科卒業生、横山慈央、高橋章子

合計 322000円

前回の会報182号以降、本会宛にご

連絡がありました方々は、次の皆様です。

ご冥福をお祈り申し上げます。

○内は逝去された日です。

山本一郎氏 S20 F卒 (R3・4・6)

小島毅氏 S29 M卒 (R5・11・6)

大鳥身吉氏 S29 M卒 (R6・1・10)

田口次雄氏 S33 A卒 (R5・1・3)

田口寿恒氏 S34 A卒 (R6・1・14)

2024年度同窓会各料理事

アートクラフト科

磯野祥・杉本勉・井上正治・神山隆夫・

堀越敏晴・石井正美・坂巻章雄・松本礼・

佐藤充俊・善養寺幸子・石井あづみ

マシンクラフト科

藤岡俊平・細江邦雄・佐々木敏浩・

眞田李風・木村光輝

インテリア科

岡田里美・桜井洋一・伊東久江・佐藤貴志・

明間秀信・坪井裕・宮田潤一・久保田晃・

久保田真奈美・伊藤聖樹・堀口邦枝・川越れい子

グラフィックアート科

佐々木慎一・都築晋平・井出賢一・

久保木秋徳・福田善志・岡崎晴重・久保遊・

富成世梨・佐藤万里子

デザイン科

梶広幸・菊地和浩・荒井拓哉・福田哲夫・

鈴木陽子・佐藤秀男・久世佳史・

杉原由美子・鶴飼千春

中京工芸会(休会中)

岩佐泰樹

関西工芸会

丸山士郎・松田健

日本全国配送できます！

・工業品・紙製品・美術品

・定期便・時間指定便・緊急スポット便

・保冷・加温配送 (-25℃～+40℃)

・イベント・個展の作品の保管から搬入等

基本的にチャーター便と呼ばれる車丸々1台貸し切りでお運びいたします。一般配送より割高ですが混載しないので安心・安全・時間厳守にお運びすることができます！



株式会社誠和トラスト
担当M科2014年卒 藤岡俊平

お電話でのお問い合わせは 090-1844-5425 (藤岡直通)
メールでのお問い合わせは s-fujioka@seiwa-trust.co.jp
こうげいを見たとお伝えいただけますとスムーズです。

HPの専用フォームから
ご連絡いただくことも
可能です！



(スマートフォンから会費納入が できるようになりました)

同封の「払込取扱票」のお名前の下に印刷されたバーコード(下図)から会費の納入ができます。利用できるのはLINE Pay(ラインペイ)、PayPay(ペイペイ)、au PAY(エーユーペイ)、PayB(ペイビー)です。アプリで読み取ると支払い画面になり、確認して納入の終了です。(画面に表示されるサラトは会費納入の代行業者です)



都立工芸同窓会 会長
藤岡 俊平

(2014年・M卒)

一般財団法人
築地工芸会工芸基金理事長
梶 広幸

(1969年・D卒)

関西工芸会 会長
丸山 士郎

(1968年・A卒)

中京工芸会 副会長
岩佐 泰樹

(1965年・D卒)

都立工芸同窓会 副会長
磯野 祥

(1989年・A卒)

都立工芸同窓会 副会長
木村 光輝

(1985年・D卒)

都立工芸同窓会 副会長
佐々木 慎一

(1973年・P卒)

都立工芸同窓会 副会長
岡田 里美

(1989年・F卒)

都立工芸同窓会 副会長
菊地 和浩

(1983年・D卒)



都立工芸同窓会 理事
(有)坂巻工芸社 代表取締役
坂巻 章雄

(1980年・A卒)

都立工芸同窓会 理事
善養寺 幸子

(1984年・A卒)

都立工芸同窓会 理事
(有)ステーション・エム代表取締役
細江 邦雄

(1966年・M卒)

小学生用水平開き学習帳製造販売
米欧特許取得ノート発売(株)中村印刷所
中村 輝雄

(1963年・P卒)

(株)ソフケン代表取締役
駒村 武夫

(1965年・D卒)

都立工芸同窓会 監事
(株)スパイク代表取締役
桜井 洋一

(1968年・F卒)

都立工芸同窓会 監事
荒井 拓哉

(1960年・D卒)

都立工芸同窓会 理事
神山 隆夫

(1968年・A卒)



都立工芸全日制
ホームページ



都立工芸定时制
ホームページ



同窓会
ホームページ



同窓会
お問い合わせ



同窓会
会費納入



同窓会
メルマガ登録

都立工芸同窓会会報 | こうげい No.183

発行者: 藤岡俊平 編集: 梶広幸、神山隆夫、磯野祥、伊東久江 デザイン: 中村陽道 印刷所: 大東印刷工業株式会社
発行: 都立工芸同窓会 〒113-0033 文京区本郷1-3-9 都立工芸高等学校内 事務局: 神山隆夫、磯野祥
ご連絡などはホームページの「お問い合わせ」欄からお願いいたします。

<https://www.kogejob.com/contact>

